

3

多様な生き物を
守ろう



多様な生き物を守ろう！



Mother Lake
Goals

生物多様性や生態系のバランスを
取り戻す取組が拡大し、
野生生物の生息状況が改善するとともに、
自然の恵みを実感する人が増加する

滋賀県立琵琶湖博物館 学芸員 川瀬成吾

3

多様な生き物を
守ろう



ゴールに関するターゲット

- ・ 希少野生動植物種の生息・生育数の増加
- ・ 乱獲、生息地改変（開発）、里山手入れの減少等、希少種の生存に対する脅威の削減
- ・ あらゆるセクターにおける生物多様性の主流化
- ・ 除去や捕獲、繁殖抑制等による
外来種の影響削減

3

多様な生き物を
守ろう



評 価

状 態

POOR (悪い)

目標値には遠く、悪い状態にある

傾 向

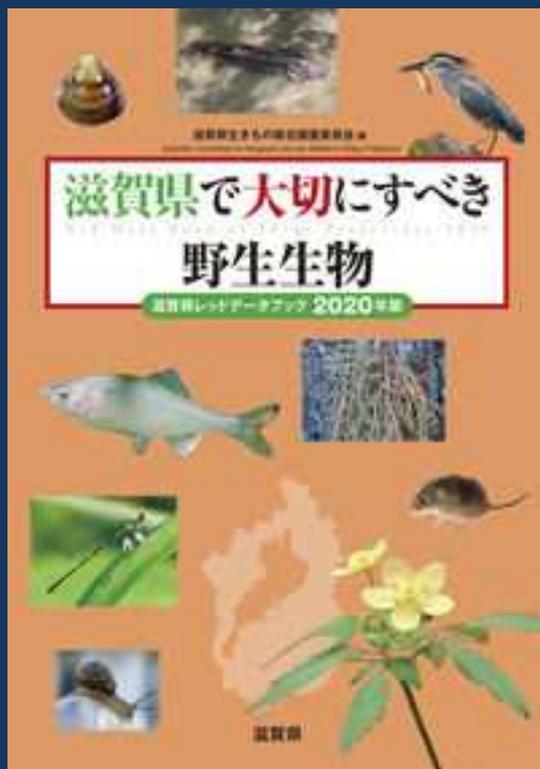


DETERIORATING

(悪化している)

経年的に悪化傾向にあることを示す

滋賀県レッドデータブック



	2020年版	2015年版	増減
掲載種（全体）	1,515 (種)	1,439	+76
絶滅種	17	15	+2
絶滅危惧種	191	176	+15
絶滅危惧増大種	173	146	+27
希少種	502	397	+105
要注目種	315	341	-26
分布上重要種	200	275	-75
その他重要種	117	89	+28

生物の減少要因

- ・ 乱獲、生息地改変（開発）への対応が遅れている

ex) 高速道路・新設道路敷設、宅地開発、水田の消失、河川改修、ダム、再生可能エネルギー開発

- ・ 里山など二次的自然の手入れの減少

→ 希少種の生存に対する脅威の削減ができていない

→ 希少野生動植物種の

生息・生育数も増加していない

あらゆるセクターにおける 生物多様性の主流化

・ 滋賀県における生物多様性の認知度

2013年の状況



2013年：20.9%
2017年：44.4%

『自然本来の力を活かす「滋賀のいのちの守り」
生物多様性しが戦略』より引用

(生物多様性しが戦略中間報告)

あらゆるセクターにおける 生物多様性の主流化

・ 滋賀県における生物多様性の認知度

2013年の状況



2013年：20.9%
2017年：44.4%

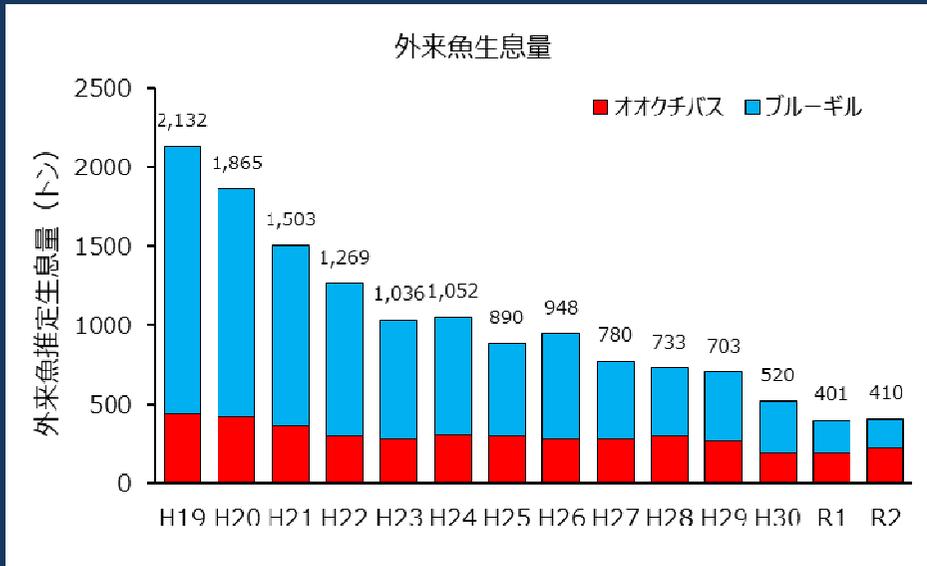
『自然本来の力を活かす「滋賀のいのちの守り」
生物多様性しが戦略』より引用

(生物多様性しが戦略中間報告)

- ・ **しが生物多様性取組認証制度**
生物多様性しが戦略に賛同し、
取り組みを実施している事業者・団体



除去や捕獲、繁殖抑制等による 外来種の影響削減



- ・ 外来種の生息数減少
 - ・ 一部在来種の増加傾向
- 着実に結果が出ている

※ 減少はしているが、オオクチバス・ブルーギルの生息数はいまだ多い状況。防除や啓発を継続することで、本来の琵琶湖に近づくことができる！



NO BASS!!

3

多様な生き物を
守ろう



ゴールに関するターゲット

- ・ 希少野生動植物種の生息・生育数の増加
- ・ 乱獲、生息地改変（開発）、里山手入れの減少等、希少種の生存に対する脅威の削減
- ・ あらゆるセクターにおける生物多様性の主流化
- ・ 除去や捕獲、繁殖抑制等による
外来種の影響削減

人がうまく手をかければ

必ず良くなる！

人よし 自然よし 未来よし

野生の**ミナミメダカ**です。
絶滅危惧種と言われるほど住める場所が無くなり、減ってしまいました。
飼っているメダカはたとえ黒くても絶対に野外に放さないでね！